99/5/18

＊キリスト教学特殊講義１＊＊＊＊＊＊＊　　S.Ashina

＜導入＞

２．宗教としてのキリスト教

２－１：キリスト教の多様性と統一性

２－２：信仰

２－３：神

２ ― ４：象徴・神話

1.[Ｓ－Ｍ－Ｏ] モデルにおけるＭ　→　象徴世界

媒介機能・表現機能（具体性）

2.意味と力（作用）：意味と生との境界線（リクール）

記号体系：説明と理解（構造分析と解釈学）

歴史的構築物

3.キリスト教的象徴世界の構造（差異性と類似性）　→　象徴の意味

4.象徴連関：神話と儀礼

サクラメント(sacramentum)

5.啓蒙的神話論への批判：ロマン主義の系譜

実在・真理概念の再構築

6.レヴィ＝ストロース：

神話的思考は人間存在の基本的な矛盾の自覚から始まり、その解決に進む

生と死、自然と文化、男と女、天と地、神と人間

神話の実存的核

7.聖書は旧約聖書：創世記からヨハネ黙示録

創造から終末へ

堕落から救済へ

堕落神話と救済神話

8.神話の歴史化

太古から始まり現在を貫いて未来の終末に至る一つの歴史（＝救済史）

祭りの歴史的起源の物語：農耕祭から歴史的記念祭への転換

9.神話の論理→キリストの出来事の歴史性

メシアの条件

cf.　グノーシス主義

10.「キリストは真の神であり、真の人である」（カルケドン的なキリスト両性論）

11.神話から教義体系へ

神学的論理の枠組みとしての救済史あるいは三位一体論

＜文献＞

1.ダニエル・パット　『構造主義的聖書釈義とは何か』（ヨルダン社）

2.渡邊次郎　『構造と解釈』（放送大学教育振興会）

3.宮本・山本・大貫　『聖書の言語を超えて　ｿｸﾗﾃｽ･ｲｴｽ･ｸﾞﾉｰｼｽ』（東京大学出版会）

4.大貫隆訳・著　『グノーシス神話』（岩波書店）